

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置時 (H26年12月)	1 設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論および応用を教授研究するという大学院の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	留意事項	留意事項を踏まえ、認可後の平成27年1月14日に全学教員集会を開催して、全教職員を対象に大学院設置の趣旨・目的及び設置計画の詳細を学長より説明するとともに、大学院開設後の課題について周知を図った。また、平成26年12月には、設置認可に先立って準備していた研究科設置準備委員会を本格的に立ち上げ、入学者選抜の準備及び実施にあたり、同時に、「履修の手引」「履修ガイドブック」等の作成にあたった。さらに、研究科の運営に必要な諸規程の整備を進めるとともに、運営体制を整えて研究科開設に備えた。平成27年4月4日には、入学者7人（一般1人、社会人6人）を迎え、授業及び研究指導の開始にあたって必要なオリエンテーションを実施するとともに、4月9日からの授業開始後は、研究指導科目を含め授業の確実な実施に努めている。また、大学院に相応しい水準の研究活動を展開するため、3月末までに図書665冊（うち洋書314冊）、雑誌35誌（うち洋雑誌4誌）を新たに整備した。(27)
設置時 (H26年12月)	2 「初等教育の理論と応用」に関し、シラバスで「数学教育」という文言を使用しているが、実際は「算数教育」の内容であるため、文言を改めること。	留意事項	留意事項を踏まえ、平成28年度シラバスにおいて「数学教育学」を「数学教育学（算数教育を含む）」に、「数学教育の授業開発」を「算数科の授業開発」に変更すること等を予定している。(27)
設置時 (H26年12月)	3 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実施すること。	留意事項	該当なし
			平成27年4月の開設時に専任教員20人を配置したが、うち6人が定年（65歳）を超えていたため、定年規程の特例を適用して配置した。平成27年5月1日現在、その内訳は、次のとおりである。 教員A【70歳】 教員C【70歳】 教員D【69歳】 教員F【67歳】 教員G【66歳】 教員H【66歳】 これら6人の定年超え教員は、研究科開設後2年を経過した平成29年3月末の退職を予定しており、平成27年度より後任補充に取り組むこととしている。(27)

(注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。